

令和7年度 全国学力・学習状況調査 市内の児童・生徒の調査結果を公表



全国学力・学習状況調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教員の指導方法の研究・改善や市教育委員会の教育施策の改善・充実につなげることを目的としています。

今年4月に、市内の全小中学校が参加した全国学力・学習状況調査の結果について、概要をお知らせします。

なお、この調査結果は、児童・生徒が身につける学力の一部であることをご承知ください。

調査対象

対象者：小学6年生（24校）、中学3年生（11校）

内容：教科に関する調査

（小学生／国語・算数・理科、 中学生／国語・数学・理科）

生活習慣や学習習慣に関する調査

1 教科に関する調査

(1) 小学6年生 国語

現状と課題	○平均正答率 65.4% (全国値との比較 -1.4 ポイント) ○知識及び技能では「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱いに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」すべてで全国値を上回りました。 ○思考力・判断力・表現力等では「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」すべてで全国値を下回りました。特に「話すこと・聞くこと」は全国との差が大きく課題です。
今後に向けて	○「話の内容を捉える」「考えが伝わるように書き方を工夫する」「伝え合う内容を検討する」の3点を特に課題と捉え授業改善を進めていきたいと考えます。 ○授業の中に、話し合い活動や発表する活動など、アウトプットする場面をさらに設け、自分の考えを相手に伝える学習をより多くしていきたいと考えます。

(2) 小学6年生 算数

現状と課題	○平均正答率 55.0% (全国値との比較 -3.0 ポイント) ○「角の大きさについて理解している」のような知識・技能の基礎的な問題の正答率は全国値を上回りましたが、「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる」のような思考・判断・表現に係る問題に課題が見られました。 ○領域別では「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4領域全てで全国値を下回りました。
今後に向けて	○多くの情報の中から必要な数量を見出したり、複数の情報から必要な数量を選択したりする場面を授業の中に積極的に位置づけていくことが必要です。 ○児童が互いにに関わり合って課題を解決する場面を増やすことで、見方や考え方を深め、根拠をはっきりさせて表現することを大切に授業改善をしていきたいです。



(1) 小学6年生 理科

現状と課題

- 平均正答率 55.4%（全国値との比較 -1.7 ポイント）
- 「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている」など知識・技能に関する問題の正答率は全国値を上回りましたが、「水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができる」などのような思考・判断・表現に係る問題に課題が見られました。
- 領域別では「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域すべてで全国値を下回りました。

今後に向けて

- 「問題を見出し表現する」「理由を表現する」ことを、観察・実験を通して、授業の中に日常的に位置付けていくことが大切であると考えます。
- 観察・実験の結果をもとに、自分の言葉で表現し、児童が互いに関わり合って、話し合いや発表する活動をさらに設けていくことが必要であると考えます。



(3) 中学3年生 国語

現状と課題

- 平均正答率は 54.5%（全国値との比較 +0.2 ポイント）
- 知識・技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国値を上回りました。
- 思考力・判断力・表現力の「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」は全国値 -0.1 ~ +0.2 の範囲にあり、ほぼ全国と同様と言えます。
- 「内容のまとまりを意識して文章の構成を考える」「伝えたいことを明確にすることができる」ことに課題が見られました。「根拠を明確にして書くこと」「語彙の理解」「読み取りの力」では全国を上回っています。

今後に向けて

- 「国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ」と考える割合が、88.8%で昨年度に続いて全国値を上回っています。今後も国語学習への関心・意欲を大切に国語力向上につなげたいと考えます。
- 文章を構成する力を高めるために「話すこと」「書くこと」において、根拠を明確にして構想していく場面を多く取り入れ、学習を積み重ねていきたいと考えます。

(4) 中学3年生 数学

現状と課題	○ 平均正答率は45.4%（全国値との比較 -2.9ポイント） ○ 領域別の「数と式」「図形」「関数」「データの活用」に関する問題の正答率はすべて全国値を下回りました。問題形式では、記述式が全国よりは下回っていますが、一昨年度よりは向上してきています。 ○ 設問別で全国とはほぼ同程度だったのは「数量を文字を用いた式で表すことができる」「グラフから必要な情報を読み取ることができる」で、文字式やグラフに関する内容については同程度と言えます。
今後に向けて	○ 「数学の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ」と考える割合が76.1%で、全国をやや上回っています。さらに数学の有用性を感じられる授業展開を工夫し、意欲を高めていくことで数学の力を伸ばしていきたいと考えます。 ○ どのように考えたかの学習過程を大事にし、数学が得意な生徒も苦手と思っている生徒も、考えを交流することで見方・考え方を深めていけるよう学習を継続していきたいと考えます。

(3) 中学3年生 理科

調査開始以来、初めてコンピューター使用型調査（CBT）で実施し、次回調査以降に学力の経年比較が可能な項目反応理論（IRT）に基づくスコアで結果を示しています。

現状と課題	○ IRT スコア 503（全国値との比較 ±0） ○ 「元素を記号であらわすこと」「回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関すること」など、知識・技能は全国値より高い結果になりました。 ○ 「地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析・解釈する」「身の回りの事象から生じた疑問や問題を解決するための課題を設定する」など、思考・判断・表現では全国値より低く、課題が見られました。
今後に向けて	○ 「自然の中や日常生活において、理科に関する疑問を見いだしていますか」が59.9%であることから、疑問を感じる場面を多く設定することが必要と考えます。 ○ 「理科の授業では観察や実験をよく行っていますか」は93.1%で全国値より高い結果となっています。それを活かし、予想を立て・自分の考えを持ち・考察していく学習過程を大事にして、友達と結果を共有しさらに考察するなどの活動を工夫することで、思考・判断・表現の向上につなげていきたいと考えています。



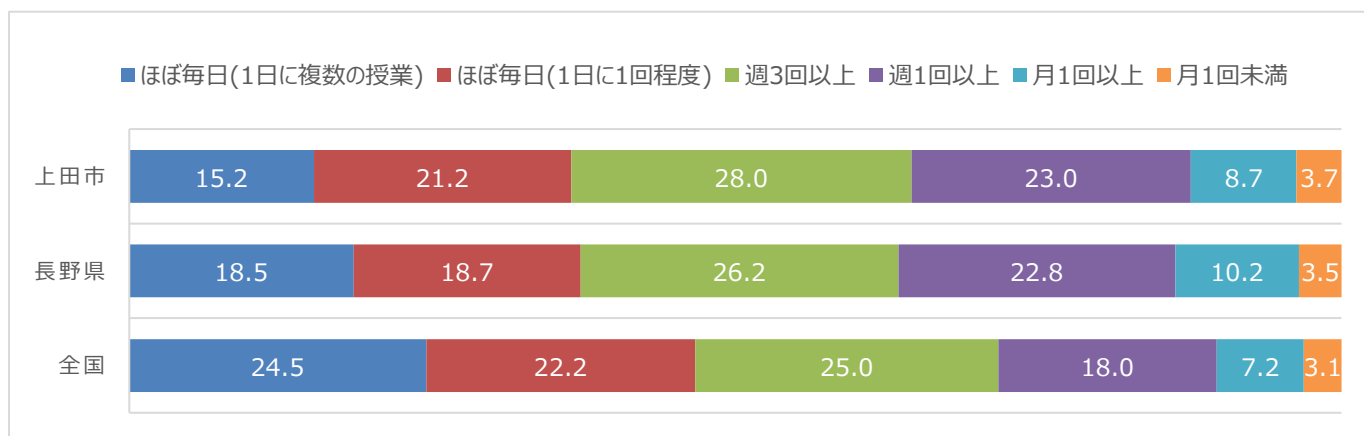
2 生活習慣や学習習慣に関する調査

小学 6 年生・中学 3 年生

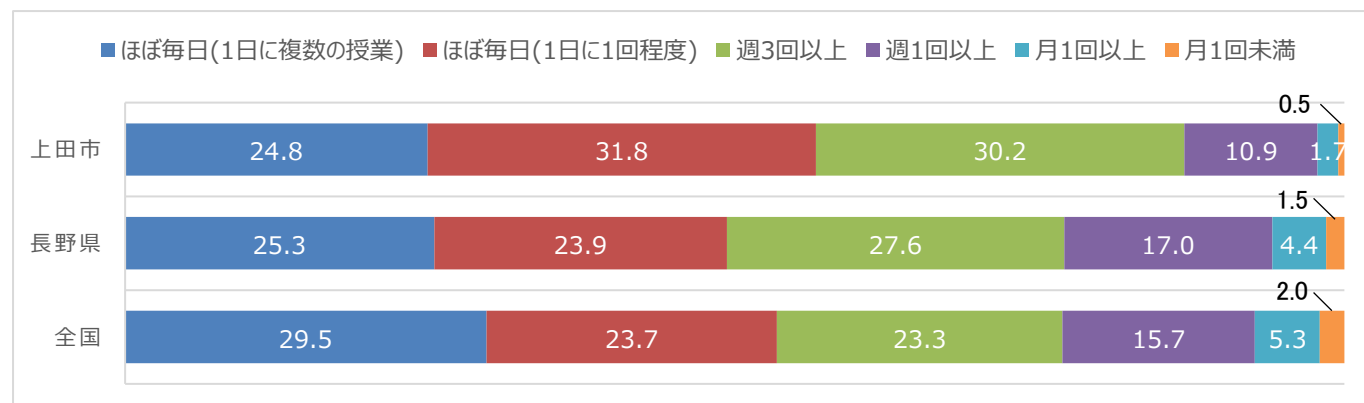
◆ PC・タブレットなどの ICT 機器の有効活用を目指して

現状と課題	○ 「授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」について、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童生徒の割合は、小学生が 64.4%（全国比－7.3 ポイント）、中学生が 86.8%（全国比＋10.3 ポイント）となりました。（グラフ①、②） ○ なお、前年度から小学校で 0.8 ポイント、中学校で 11.5 ポイント増加しています。 ○ 小学校では全国よりも低い結果となっているので、さらに日常的に ICT 機器の利用を進めていくことが課題です。
今後に向けて	○ 日常的に ICT 機器を活用できるよう、授業の中で考えを交流する場面で積極的に活用したり、児童会活動・生徒会活動などで進んで活用したりしていくことが大切です。 ○ 一人一台端末などの ICT 機器は、児童・生徒の興味・関心や個に応じた追究ができる重要なツールです。学校間や教員間の活用の差を解消し、個別最適な学びと協働的な学びをさらに充実させていきたいと考えます。 ○ ICT 機器を活用することで、単なる情報収集だけでなく、情報を分析して思考力・判断力をつけたり、考えたことをアウトプットすることで表現力を高めたりしていきたいと考えます。

グラフ① 小学校＜5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか＞



グラフ② 中学校＜1、2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか＞

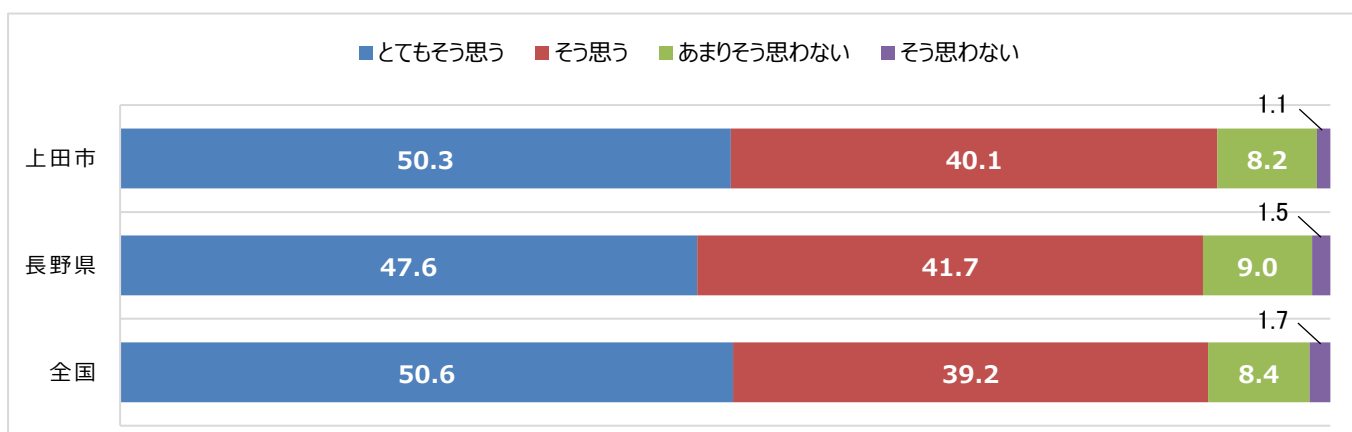


※ グラフの合計値は 100 にならない場合があります。

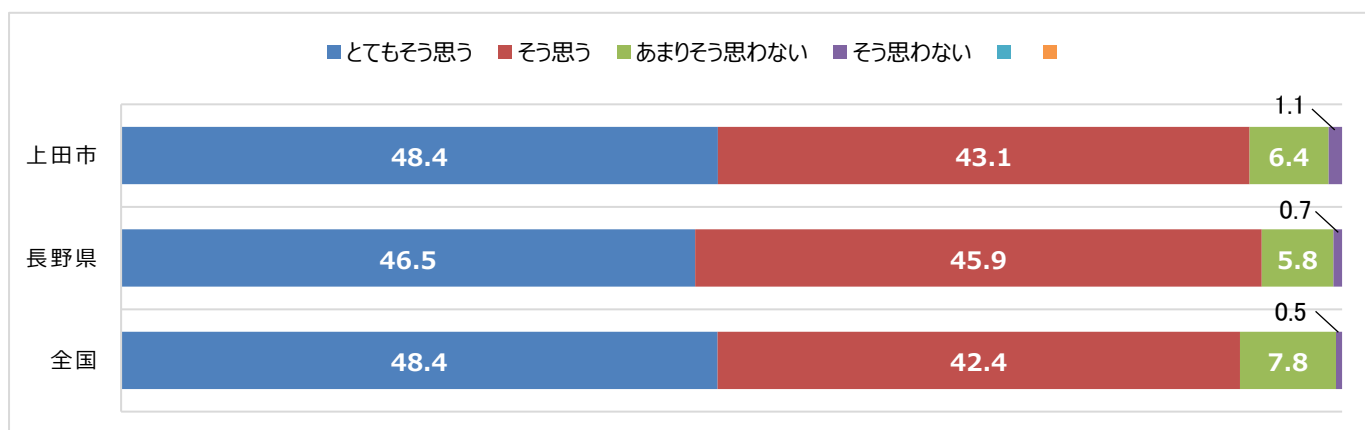
◆ 情報活用能力の育成と、ICT の適正利用を目指して

現状と課題	○ 「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか」について、小学校、中学校ともに「とてもそう思う」「そう思う」が 90%を超えています。（グラフ③、④）多くの児童生徒がインターネットに親しみ、利用している様子が分かります。 ○ 今回の調査では利用時間の調査項目がありませんでしたが、昨年度の調査において、長時間利用している割合が年々増加傾向なので、利用時間について心配な面があります。
今後に向けて	○ ICT 活用能力は、これからの社会に必要不可欠であることから、学校での適切な活用で情報活用能力を高めていきたいと思います。特に 10%弱の苦手だと感じている子たちの指導に力を入れていく必要があります。家庭においては、適切な利用時間になるよう保護者に呼びかけ、メディア機器の望ましい使用について取り組んでいきたいと考えます。 ○ また、情報モラルの問題は ICT 活用において重要で、児童生徒が危険性を理解し、自ら考え判断できるように導いていく必要があります。地域社会・学校・家庭で連携し、適切に ICT を活用していく力をつけていけるよう支援していきたいと思います。

グラフ③ 小学校 <あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか>



グラフ④ 中学校 <あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか>



※ グラフの合計値は 100 にならない場合があります。

3 変化の大きな社会を生きる力を育むために

子どもたち一人一人に確かな学力の定着とさらなる向上が図られるよう、これからも、学校では子どもの興味や関心に合わせた教材を用意したり、体験学習の機会を設けたりすることなどによって、様々な課題に主体的に取り組むことができるよう継続して授業改善に取り組んでまいります。また、児童・生徒が、既存の発想にとらわれず、新しいアイデアを生み出す「創造性」、他者の意見を大切にする「対話力」「コミュニケーション能力」などの育成も大切です。

上田市教育委員会では、これらの調査結果を有効に活用し、児童・生徒がよりよい生活習慣や学習習慣を身につけることができるよう、家庭・学校・地域の連携をさらに深め、教育施策を立案・実践してまいります。



上田市教育委員会 学校教育課

電話：0268-23-5101

FAX：0268-23-3745

Mail：gakukyo@city.ueda.nagano.jp